

春 告 草

第 114 号 平成 30 年 7 月 20 日 進路指導部発行

苦手科目に克つ 夏に^{アタマ}頭脳を鍛える！

明日から夏休み。学校のタイムスケジュールに縛られることのない38日間は、まさに使いたい放題の魅力的な時間である。6年生にとっては受験に向けて、より一層の学力向上を目指すための大切な時間となる。いろいろと計画を立てていると思うが、あれもこれもと手を伸ばしすぎではいけない。38日と書いたが、「38日しかない」のも事実である。「夏休み中は、すべての時間を英語の勉強に充てました」なんてことを言ってきた生徒が以前いた。苦手科目の克服にチャレンジした気持ちは買うが、プランとしては最悪である。その生徒が夏休み明け、数Ⅲ微積の計算スピード、感覚が鈍っていたことは説明するまでもないだろう。苦手科目の克服にかける時間は、多くても計画全体の半分くらいに止めたいものだ。

4年生、5年生にとっても得意科目を伸ばし、苦手科目を克服する絶好のチャンスである。目標を立てて、しっかり取り組み、夏休みを有意義に過ごすことを心がけよう。

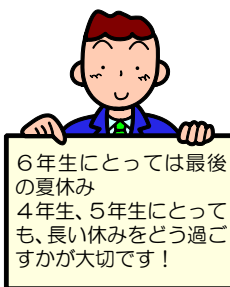
今回は受験誌の記事をもとに、苦手科目克服のためのヒントを皆さんに提供してみたいと思います。

■ 苦手の実態

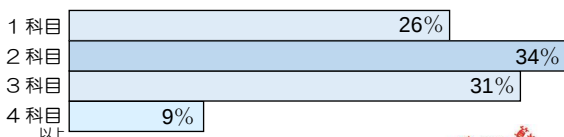
大学合格者へ行ったアンケート結果では、「苦手科目があった」は93%を占め、科目数は「2科目以上」が70%以上となっている。受験科目の中で苦手だった「教科」については、文系は数学、国語、理系は理科、数学である。文理に関係なく苦手教科に「数学」をあげる人は多い。注目すべき点は文系生徒が国語、理系生徒が理科を苦手と感じている割合が高いこと。グラフにはしていないが、国語の中で苦手と思う分野は、古文 54%、漢文 36%、現代文・小説随筆 31%、現代文・評論 29%で、古典を苦手としている人は多い。理科を苦手としている理由については、文系生徒は「知識不足」58%、「基本事項」47%と基礎知識をあげている人が多いが、理系生徒は、「特定分野がとにかく苦手」51%、「問題の解法が見いだせない」40%と記述問題レベルでの悩みが多いようだ。英語の割合が低いのは、アンケート対象が「大学合格者」だったことも影響しているかもしれない。

苦手だった理由に関しては、「必要な知識が不足していた」「理解が浅かった」「基礎固めができていなかった」「つまずきや弱点を放置した」が多い。

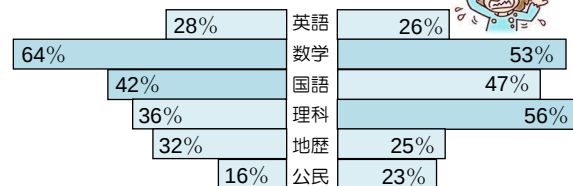
「高3の1学期、私は苦手の数学をきちんと勉強していました。放置していたつもりはなかったのですが、いきなり2次の過去問や難関大レベルの演習問題に着手したのです。5分程度考えても分からず、答えを見て理解したつもりになっていました。高2のときから東京大を志望していて、難度の高い演習をやらなくては、という焦りが強かったように思います。こんな学習では実力が伸びようもないのですが、数学の失点は得意の世界史・日本史で挽回すればよいと軽く考えていました。」(Tさん 東京大・文二、



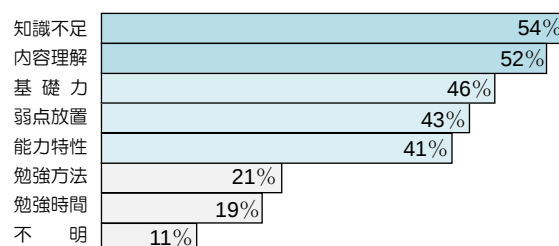
Q 苦手科目の数はいくつ？



Q 受験科目の中で苦手だった教科は？



Q 苦手だった理由は？



現役合格) というように得意科目で苦手科目の埋め合わせをしようとする人は多い。しかし、目標を高く置けば自分の得意科目と同レベルの競争相手は確実に増えてくる。それどころか、自分以上に高い実力のある人が多くいるものだ。冷静に考えれば分かりそうなものだが、自分にとって都合の良い方へ行動してしまうのが、人間の弱いところだろう。ついつい得意科目の勉強に走ってしまう傾向が皆さんにもあるのではないだろうか。

■ 苦手の克服方法

苦手科目はあって当然。問題はそれを放置せず、苦手の原因を把握して対策を立てることができるか否かだ。前出のTさんは

「東大模試の数学で、得点が一桁だった時にはさすがにショックで…。得意科目だけでこの穴を埋めるのは難しいと気づいたのです。そこで、数学でせめて1問は解けるようになると、秋から基礎を復習し、典型問題の解き方を勉強し始めました。すぐに解答を見るのも止め、自分で考え抜く勉強に変えました。」と述べています。

「私も現役時代、苦手を避けていたので、浪人時にセンター試験番までにやることを書き出し、学習スケジュールを作りました。数学は中学レベルからの復習に取り組み、同じく苦手だった英語は単語や熟語などの基礎知識を身につけた後、問題演習をやるという予定を実行してきました。」(Fさん 筑波大・芸術専門学群 一浪)

得意科目を10点伸ばすことより、苦手科目を20点伸ばすことの方が簡単な場合も多いものだ。当初、苦手科目だからこそ、効率の上まらない勉強をしがちで、成績が上がるまでに時間がかかるものだが、ここを何とか我慢して乗り切れば、その後成績が飛躍的に伸びてくるチャンスがある。

「苦手科目は後回しにしがちです。しかし後になればなるほど克服は困難になります。全体が俯瞰できる得意科目に比べ、苦手科目は全体をつかんでいないため、どこを学習していかなければならないかを簡単にはつかめません。全体が分かれば苦手意識は取り除くことができますが、それには時間がかかります。ですから「苦手」ということが分かったら、できるだけ早く、今からでもすぐに始めることが大事です。」(Oさん 京都府立大文学部 現役合格)

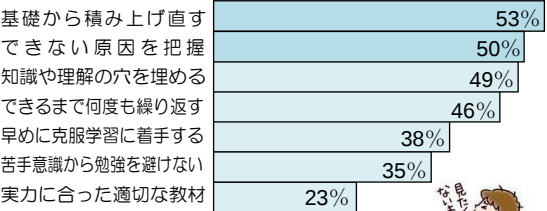
2学期以降は本格的な演習に入る時期であり、その為にこの夏休みは基礎を今一度鍛えなおす意識が必要だ。

まず、国語。古文・漢文に対して苦手意識を持っている人が多いと冒頭に述べたが、苦手の原因のほとんどが、覚えるべき基本事項を覚えていないことにあると言ってよいだろう。古文なら単語と文法、漢文なら漢字と句法を覚えることに徹しよう。全体を網羅して体系的な知識を頭に入れることが大事である。現代文については苦手な人ほど「解く」ことに力を入れよう。習うより慣れろ、である。一題一題を深く読み込む前に、まずはたくさん読んで、たくさん解いて入試現代文への抵抗感を無くするのが先決だ。

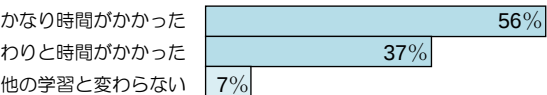
文理に関係なく苦手に思う人が多い数学もやはり、基礎固めが大事である。夏休みが終わるまでに、数学Ⅰ、A、Ⅱ、Bについては、標準的な参考書の基本例題の解法がすぐに思い浮かぶレベル、数学Ⅲの既習部分については、サクシードの問題が一通り解けるレベルに達しておくことが目標となる。また、特定の分野が苦手だという場合は、もう一度教科書を読み直すことから始めてみても良い。基本公式や定理の証明まで含めて理解し、場合によっては書けるようにしておくことも必要となる。数学全体が苦手だという場合は、38日間の中でできることをやることだ。あれもこれもとやろうとすると失敗する。特定の分野2～3に絞って取り組もう。ある分野が固まってくれば、夏休み明けからの勉強も効率が上がってくるはずだ。

英語は弱点分野が残らないよう、偏りのない全般的な学習が必要となる。秋から過去問演習や志望校レベルの問題を扱った具体的な対策が学習の中心となるが、具体的な弱点が把握できていないという場合は、基礎力が足りていないと「何が分からないのか分からない」状態になりがちだ。そのためにも、センター試験第2問Aを3年分くらい解いてみると良い。誤答した問題は単語・熟語・文法、いずれからの出題なのか、文法であればどの分野で誤答するのかが明確になるので、効率よく弱点を補強できるはずだ。

Q 苦手を克服するポイントは？



Q 苦手克服にかかった時間はどのくらい？





「高校生らしく」夏休みを過ごす。

明日から夏休み。それぞれ4回目、5回目、6回目の夏休みを本校で迎えるわけですが、「高校生」としての自覚をもって、この期間を過ごしてもらいたいと考えています。

4年生は「4年目の夏休み」ではなく、「後期課程1年目」つまり「高校生らしく」この夏休みを過ごしてください。明日から勉強合宿がありますが、その後弱点補強など、自分オリジナルのプランを立てて実行することが大切です。

図表1は後期課程進級前に行った「平日と休日の平均学習時間」の調査です。これによれば、8割の人が「平日の学習時間1時間以内」という状況だった。毎日1時間を超えて家庭学習をこなしている人は学年全体の僅か五分の一ということ。この時間では、宿題をこなすだけで手いっぱいだろう。もしかしたら、宿題もろくに…という状況があったのかも知れない。さらに、休日の家庭学習3時間以上という人は、やっと1割強という状況だった。現在の状況が調査当時と同じというわけではないと信じたいが、1学期の自分の取り組みをしっかりと振り返り、進路実現に向けた学習が実行できていたかを検証しておこう。データ元はスタディサポートだが、全国集計によれば、夏休みを境にして、成績上位層と下位層とで学習時間の差が大きくひらいていく傾向があります。

学力面では、国数英ともこれまでの同時期調査と比較してこれといった問題はありません。特に国語は上位層が厚く、最も良い分布です。欲を言えば「数学」が上位層と中位以下の層とに乖離がみられること。さらに、トップ層の人数がもっと増えると良いと思います（図表2参照）。

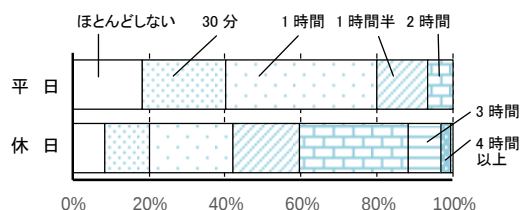
また進路実現には保護者の方のご理解、ご支援が必要だと考えていますが、図表3の数値を見ると十分に自分の意思が保護者の方へ伝わっていない状況があるかも知れません。夏休み中は、オープンキャンパスなど進路に関するイベントが各大学などで開催されます。保護者の方もお誘いして、一緒に出掛けてみると良いと思います。

5年生は鷹校祭の中核としてしっかりと準備を進めていかなければいけませんが、個人としてやるべきことが疎かになってはいけません。夏休みは「高校生活の折り返し点」です。次の進路へ向けて自分の意志で「舵を切り」、力強く「前へ」進まなければいけない時期なのです。

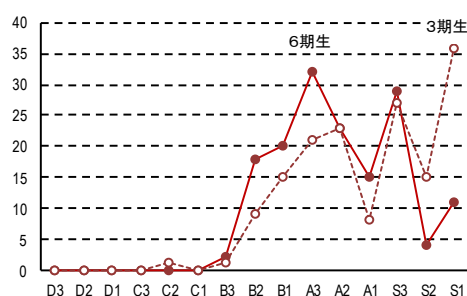
図表4は5年進級前に行った調査の集計です。「受験勉強のスタート時期」について、3割弱の人が1学期までには開始する、夏休みまでには過半数の人が始めると答えていました。調査当時の自分の気持ちを振り返って、1学期中の取り組みをじっくりと検証してみてください。1学期を振り返って「あれっ、そうだったっけ？」と思えるような状況はなかったでしょうか。学力向上には、常に積極性をもって取り組みたいものです。全国集計と比べても、受験勉強のスタート時期についてはまだ甘さがあるように思えます。

また、かねてより指摘されているとおり、英語の学力向上が学年全体の学力面での課題です。図表5は今年の卒業生の同時

図表1 平日と休日の学習時間(4年生)



図表2 数学学力到達度分布



図表3 進路について保護者の受け止め方(後期課程進級時)

	6期生	5期生
ほとんど話し合ったことがない	24.0%	39.9%
自分の考えを十分に理解してくれている	51.3%	35.4%
自分の考えをほぼ理解してくれている	17.5%	15.8%
保護者から任されている	7.1%	8.9%

図表4 受験勉強のスタート時期

	4期生	難関国公立合格者	地元国公立合格者
高1 3学期以前	2.2%	8.1%	4.2%
高1 春休み	7.9%	13.8%	13.4%
高2 1学期	18.0%	20.1%	21.6%
高2 夏休み	26.6%	24.1%	25.3%
高2 2学期	13.7%	10.5%	10.9%
高2 冬休み	12.2%	7.6%	8.9%
高2 3学期	10.8%	8.4%	7.6%
高3になってから	8.6%	0.4%	7.9%

期成績と比較したのですが、上位層が薄く、中位から下位にかけて厚く分布している状況があります。それぞれが自分の学力を客観的に分析し、今後1年間でこれをどう伸ばしていけばよいのかを明確にしていかなければなりません。「大学受験は英語で決まる」この言葉をもう一度かみしめ、夏に向かおう。

6年生は高校生らしくというよりも「受験生らしく」ですね。言うまでもなく、高校最後の夏休みです。そして今日で「センター試験まであと183日」となりました。2学期の始業式は144日前になります。しっかりと計画を立てて、それを実行していきましょう。進路指針の体験記も大いに参考になるはずですから、是非読んでみてください。

さて、最新の模試データは6月マーク模試ですので、このデータを元に6年生全体の学力状況を確認しておきたいと思います。図表6は皆さんと3期生との成績分布の比較です。地歴・公民、理科はこの時期はまだ十分に準備が進んでいないと思われますので分析は省略し、国語、数学、英語の3教科について見ていきましょう。横軸には全国偏差値をとっていて、右にいくほど高い値ですが、「事情」により数値は省いてあります。

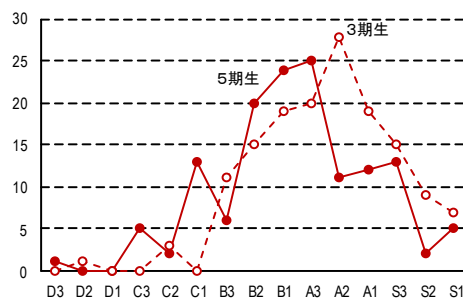
これによると、国語に関しては、上位層が厚くなり中位層が減少しているのが分かります。ただし、3期生はこの状態から上位層が増えてきた状況がありましたので、皆さんもこの状態に安心せず、さらに力をつけていくようにしましょう。試験に国語が課される文系の人は特に補強ポイントを国語に合わせることが大切ですが、センター試験にしか利用しない人にとっても「苦手を放置しないこと」が大切です。「先生に教えてもらった文章の読み方や解答の書き方をもとに、”筆者の言いたいこと”をつかめるように勉強した。」「センター試験対策は”根拠”をもって答えを選ぶ」「根拠に線を引きながら要約を書く」など、いろいろ工夫しながら苦手科目を克服していったという声があります。

数学は点線（3期生）と同様の分布をしています。昨年は「2期生に比べて全体に右へ移動していて、良い状況である」と評価したのですが、同様の状態です。ただし、細かく見てみると上位層と中位以下の層が離れている状態とも見ることができます。7月模試の結果が出ましたら、少しこの辺の状況を見てみたいと思います。

英語は60～70あたりで減少があります。全体としては中位層の厚みがありますので、さらにもう1つ抜け出てくることが望まれます。さらに力をつけるよう、夏の勉強に取り組みましょう。「長文は最低3回読む（速読→音読→精読）」と良いと言われたので、細かい文法や構文は気にせず文章の大意を理解することに重点を置いていました」といった地道な努力が学力向上に役立っていくのです。

以上、学習面に目を向けてコメントしましたが、2学期には鷹校祭もあります。行事に一生懸命取り組むところは三鷹高校から続く鷹高生、鷹校生の気質です。みんなと力を合わせて行事に取り組むことが、受験期でのパワーの源にもなるはずです。しっかりと「高校生らしく」この夏を過ごしてください。

図表5 英語学力到達度数分布



図表6 6月マーク模試成績分布

